

○八幡排水機場では、平成29年10月22日10時～23日13時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量343万m³の内水**を排出。

■八幡排水機場の位置・全景



■大谷川の水位低減効果

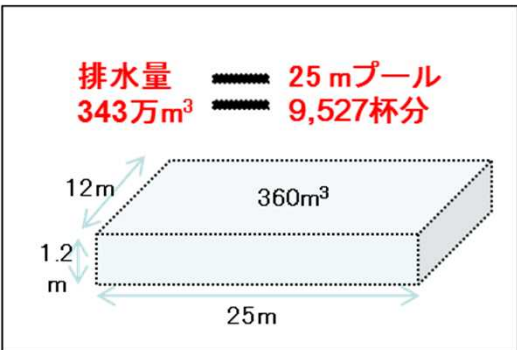
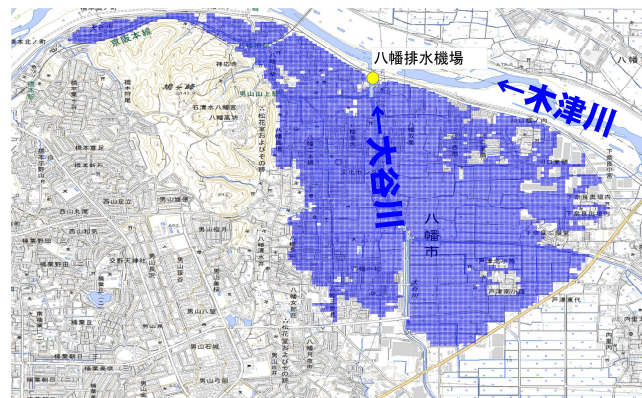
今回のポンプの稼働により、**総排水量343万m³の内水**を排出し、大谷川の水位が**約2m低下**、浸水面積が**約376ha**、浸水家屋が**約3,330戸減少**。



■八幡排水機場の役割

八幡排水機場は、大谷川の内水対策事業として、昭和40年度にポンプ3.0m³/sを2台新設しました。さらに、流域内の開発の進展を受けて、昭和63年度にポンプ12.5m³/sを3台、平成4年には12.5m³/sを1台増設して、**合計排水能力56.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。
昭和40年度から稼働している八幡排水機場は、完成からすでに**50年以上経過**しています。
八幡排水機場は、木津川洪水の大谷川への逆流を防止するとともに、大谷川の流水を木津川へ排水することで、八幡市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



※速報値であり、今後変わる場合があります。

○久御山排水機場では、平成29年10月22日14時～23日6時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量200万m³の内水**を排出。

■久御山排水機場の位置・全景



■古川の水位低減効果

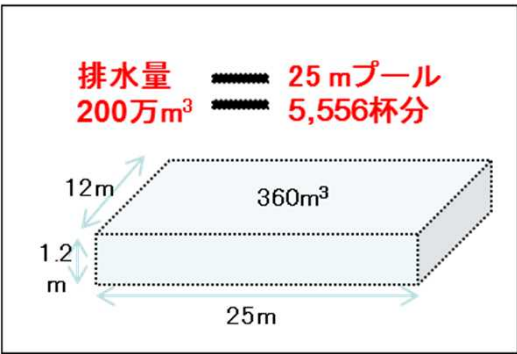
今回のポンプの稼働により、**総排水量200万m³の内水**を排出し、古川の水位が**約3m低下**、浸水面積が**約329ha減少**



■久御山排水機場の役割

久御山排水機場は、巨椋池地区の内水排除計画の策定に伴って巨椋池排水機場に隣接して新設され、昭和48年度に30.0m³/sのポンプ1台が設置されて稼働を開始しました。その後、昭和62年度には30.0m³/sのポンプ1台が増設、平成4年6月にも30.0m³/sのポンプ1台が増設され、**合計排水能力90.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。昭和48年度から稼働している久御山排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。久御山排水機場は、宇治川洪水の古川への逆流を防止するとともに、古川の流水を宇治川へ排水することで、久御山町内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



※速報値であり、今後変わる場合があります。

既存排水機場等の効果 淀川水系宇治川 [大島排水機場]

○大島排水機場では、平成29年10月22日8時～23日11時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量59万m³の内水**を排出。

■大島排水機場の位置・全景



■大島排水機場の役割

大島排水機場は、堂の川の内水排除を目的として昭和41年度から昭和43年度にかけて建設され、昭和43年に3.0m³/sのポンプが設置され稼働を開始しました。

その後、昭和49年度に新たに3.0m³/sのポンプ1台が増設され、**合計排水能力6.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。

昭和49年度から稼働している大島排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。

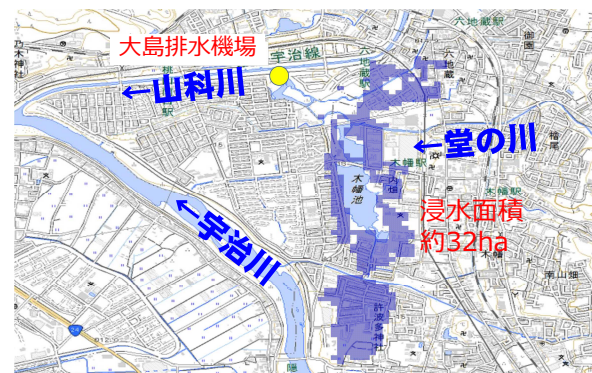
大島排水機場は、山科川洪水の堂の川への逆流を防止するとともに、堂の川の流水を山科川へ排水することで、宇治市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

■堂の川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量59万m³の内水**を排出し、堂の川の水位が**約2.8m低下**、浸水面積が**約32ha**、浸水家屋が**約750戸減少**。



ポンプが無かった場合の浸水被害



排水量 **59万m³** **25mプール**
1,639杯分



※速報値であり、今後変わる場合があります。

既存排水機場等の効果 淀川水系宇治川〔針ノ木排水機場〕

○針ノ木排水機場では、平成29年10月22日14時～23日0時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量4.3万 m^3 の内水**を排出。

■針ノ木排水機場の位置・全景



■岡本川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量4.3万 m^3 の内水**を排出し、岡本川の水位が**約2.3m低下**、浸水面積が**約10ha**、家屋浸水が**約100戸減少**。



■針ノ木排水機場の役割

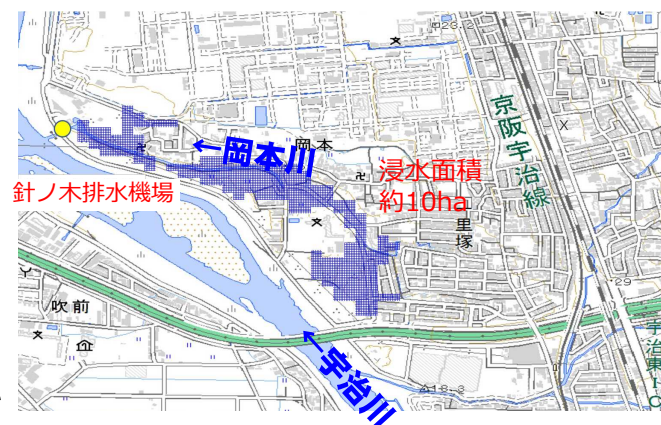
岡本川の内水被害が頻発していたことから内水排除の目的で樋門及びポンプ場が設置されていました。しかし、浸水被害が解消されなかったため、樋門とポンプ場の見直しが行われるようになりました。

針ノ木排水機場は、昭和51年度に**3.0 m^3/s** のポンプが設置され稼働を開始しました。

昭和51年度から稼働している針ノ木排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。

針ノ木排水機場は、宇治川洪水の岡本川への逆流を防止するとともに、岡本川の流水を宇治川へ排水することで、宇治市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



排水量 4.3万 m^3 **25mプール 119杯分**



※速報値であり、今後変わる場合があります。

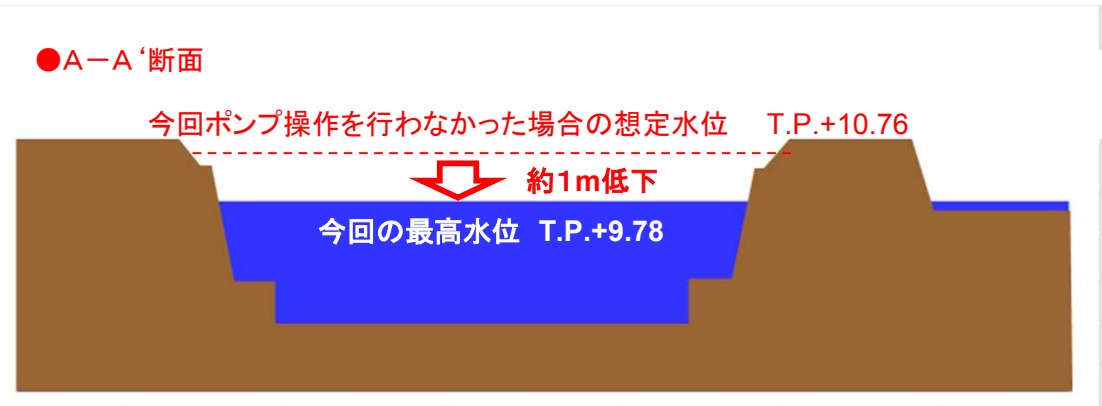
○馬路川排水機場では、平成29年10月22日20時～23日8時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量36.6万m³の内水**を排出。

■馬路川排水機場の位置・全景



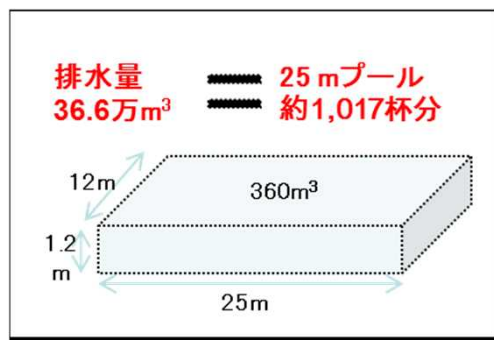
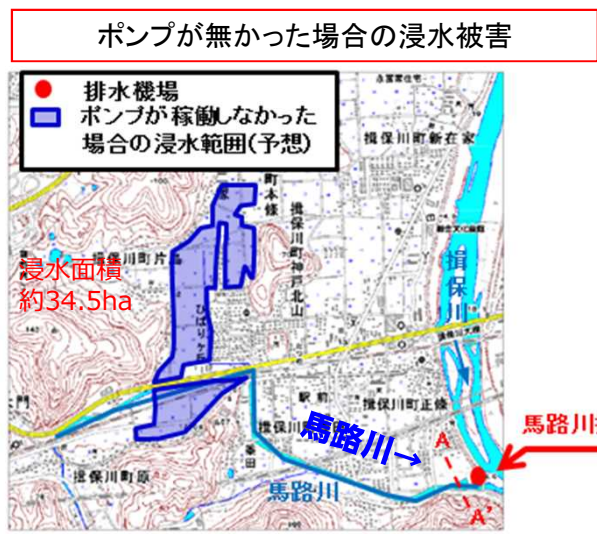
■馬路川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量36.6万m³の内水**を排出し、馬路川の水位が**約1.0m低下**、浸水面積が**約34.5ha**。



■馬路川排水機場の役割

馬路川の内水被害が頻発していたことから内水排除の目的で昭和56年度に5.0m³/sのポンプ1台が設置されて稼働を開始しました。
その後、昭和63年度には5.0m³/sのポンプ1台を増設、平成17年度には、既設ポンプ2台を6.5m³/sに機能向上し、更に1.5m³/sのポンプ2台が増設され、**合計排水能力16.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。
昭和56年度から稼働している馬路川排水機場は、完成からすでに**30年以上経過**しています。
馬路川排水機場は、揖保川洪水の馬路川への逆流を防止するとともに、馬路川の流水を揖保川へ排水することで、揖保川町の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。



※速報値であり、今後変わる場合があります。

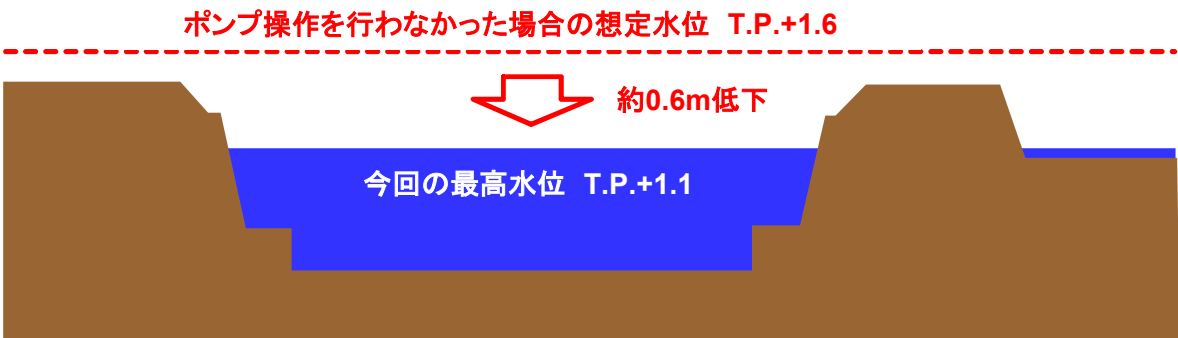
○城崎排水機場では、平成29年10月22日22時～23日15時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量26.9万m³の内水**を排除しました。

■城崎排水機場の位置・全景



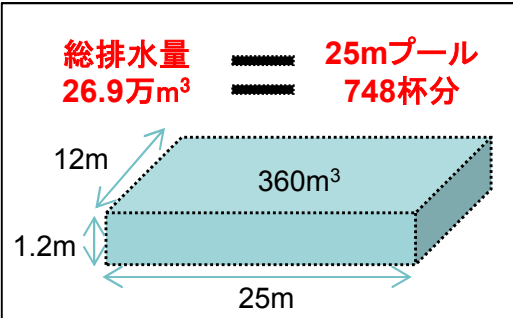
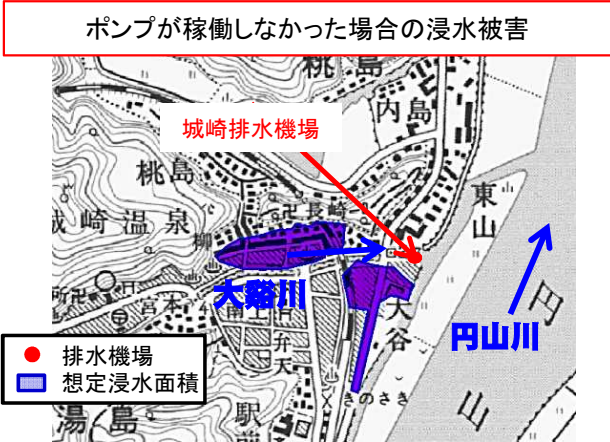
■大谿川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量26.9万m³の内水**を排出し、大谿川の水位が**約0.6m低下**、浸水面積が**約4.0ha**、浸水家屋が**約60戸減少**。



■城崎排水機場の役割

城崎排水機場は大谿川における内水対策事業として、昭和49年度にポンプ5.7m³/sを2台新設しました。さらに、平成12年度にポンプ5.7m³/sを1台増設。また、平成20・22年度に既設のポンプ2台を8.65m³/sに更新し、**合計排水能力23.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。昭和49年度より運用を開始した城崎排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。城崎排水機場は、円山川洪水の大谿川への逆流を防止するとともに、大谿川の流水を円山川へ排水することで、豊岡盆地の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。



※速報値であり、今後変わる場合があります。

○豊岡市内の沿川での浸水被害発生に備えて、豊岡排水機場と八条揚排水機場のポンプを操作・運転し、**総排水量186.5万 m^3 の内水**を排除しました。

- ・豊岡排水機場では、平成29年10月22日12時～24日3時にかけて、**総排水量129.3万 m^3 の内水**を排除。
- ・八条揚排水機場では、平成29年10月22日18時～23日10時にかけて、**総排水量57.2万 m^3 の内水**を排除。

■豊岡排水機場及び八条揚排水機場の位置・全景



■支川(戸牧川及び大磯川)の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**合計総排水量186.5万 m^3 の内水**を排出し、戸牧川の水位が**約3.5m低下**、大磯川の水位が**約3.3m低下**、浸水面積が**約426ha**、浸水家屋が**約4,900戸減少**。

豊岡排水機場の運転効果

ポンプ操作を行わなかった場合の
想定水位 T.P.+4.8



八条揚排水機場の運転効果

ポンプ操作を行わなかった場合の
想定水位 T.P.+4.8

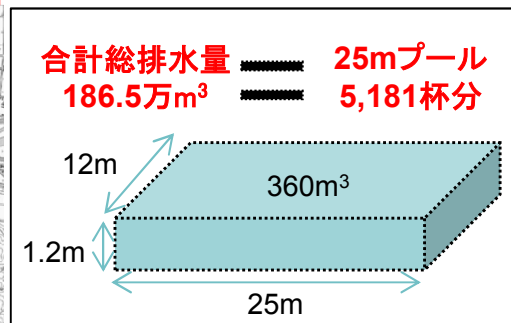
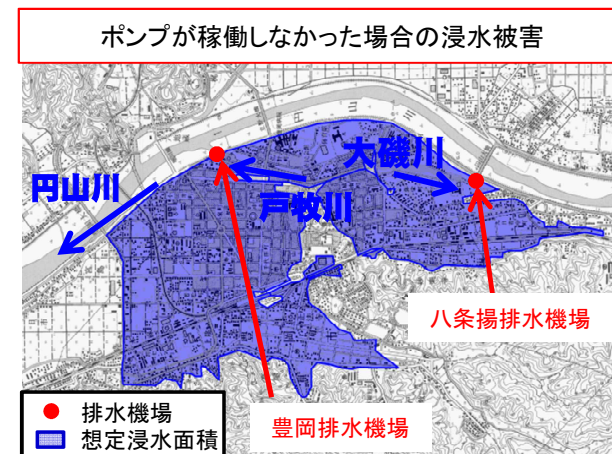


■豊岡排水機場及び八条揚排水機場の役割

- 豊岡市街地における内水対策事業として、戸牧川の水を排水する豊岡排水機場は昭和42年に4.0 m^3/s ポンプ3台で、大磯川の水を排水する八条揚排水機場は昭和53年に5.0 m^3/s (揚排水兼用)ポンプ1台にて運用を開始しました。
 - 豊岡排水機場は、平成22年に旧施設を廃止し、ポンプ7.5 m^3/s を2台擁する、**合計排水能力15.0 m^3/s** の排水機場として現在に至っています。
 - 八条揚排水機場は、平成13年度にポンプ5.0 m^3/s (排水専用)を1台増設し、**合計排水能力10.0 m^3/s** (揚水は5.0 m^3/s)の揚排水機場として現在に至っています。
- 八条揚排水機場は完成からすでに**30年以上経過**しています。

豊岡排水機場と八条揚排水機場は、円山川洪水の戸牧川及び大磯川への逆流を防止するとともに、戸牧川及び大磯川の流水を円山川へ排水することで、豊岡市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

※八条揚排水機場は、大磯川は流れが緩やかで水が滞留しやすいため、定期的に円山川本川の水を汲み上げ(揚水運転)、戸牧川(豊岡排水機場)より排出することで水を循環させ、水質の悪化を防ぐ役割もあります。



※速報値であり、今後変わる場合があります。

既存排水機場等の効果 円山川水系円山川〔六方排水機場〕

○六方排水機場では、平成29年10月22日14時～24日1時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えてポンプを操作・運転し、**総排水量365.7万m³の内水**を排除しました。
(六方川排水機場(県管理)と併せて**総排水量574.5万m³の内水**を排除しました。)

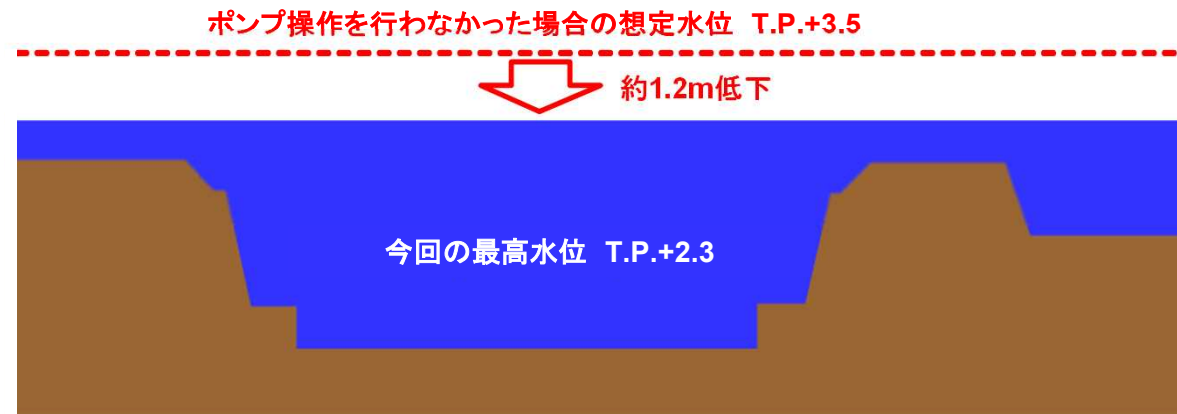
■六方排水機場の位置・全景



■六方川の水位低減効果

(※六方排水機場(国)、六方川排水機場(県)の併せた効果で算出)

今回のポンプの稼働により、**総排水量410.2万m³の内水**を排出し、戸牧川の水位が**約1.2m低下**、浸水面積が**約365ha**、浸水家屋が**約600戸減少**。

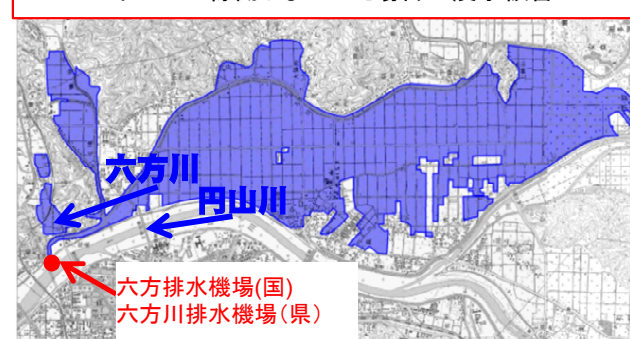


■六方排水機場の役割

六方排水機場は、六方川における内水対策事業として、平成13年に運用開始し、ポンプ15.0m³/sが2台、**合計排水能力30.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。(なお、平成25年度より、県管理のポンプ排水能力18m³/sの六方川排水機場が六方排水機場敷地内に移転し、運用開始。)

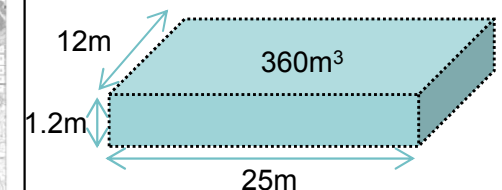
六方排水機場は、円山川洪水の六方川への逆流を防止するとともに、六方川の流水を円山川へ排水することで、豊岡盆地の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



● 排水機場
■ 想定浸水面積

排水量 **574.5万m³** 25mプール **15,959 杯分**



※速報値であり、今後変わる場合があります。

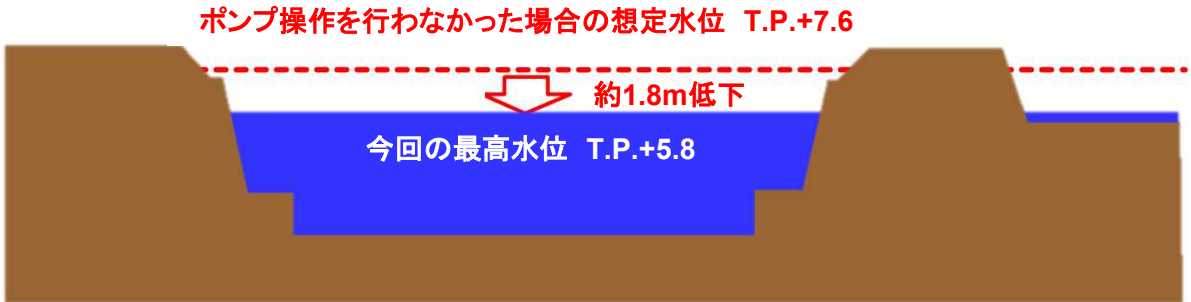
○八代排水機場では、平成29年10月22 16時～23日15時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えてポンプを操作・運転し、**総排水量293.5万m³の内水**を排除しました。

■八代排水機場の位置・全景



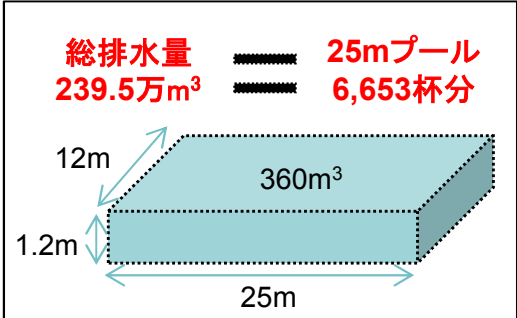
■八代川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量239.5万m³の内水**を排出し、八代川の水位が**約1.8m低下**、浸水面積が**約161ha**、浸水家屋が**約510戸減少**。



■八代排水機場の役割

八代排水機場は、八代川における内水対策事業として、平成12年度に運用を開始。平成22年度に既設ポンプ1台を4m³/sに更新し、平成24年度には既設ポンプ3台を9m³/s1台、10m³/s2台に更新、**合計排水能力33m³/s**の排水機場として現在に至っています。
八代排水機場は、円山川洪水の八代川への逆流を防止するとともに、八代川の流水を円山川へ排水することで、豊岡盆地の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。



※速報値であり、今後変わる場合があります。